

年齢は全集各巻の解題によった。執筆が長期間にわたるものは始めと終りの年齢を”-”で繋いだ。確定できないものには”?”をつけた。場所は記載位置を示す。例えば 8-1-1 は「第八巻の I の一」、7-2-1-1-10は「第七巻の II の一の一の(十)」を示す。

区切り行の年齢・年表示の後に、満之年譜情報と時事を入れた。順番は「満之年譜」「■国内時事」「◆国外時事」である。満之年譜情報と宗派時事は紺色で表示。

## 年齢 場所 項目

**1歳 (文久3 1863)** 尾張国名古屋黒門町に生れる。■長州藩、下関で外国船に砲撃。幕府、英仏に横浜駐屯を許可。薩英戦争(生麦事件)。◆上海に英米の共同租界成立。米、奴隷解放宣言。プルドン「労働者階級の政治的能力」。

**2歳 (元治1 1864)** 妹誕生により祖母まつの家で養育。■蛤御門の変(東本願寺御影堂、阿弥陀堂消失)。第一次幕長戦争。四国艦隊下関砲撃事件。◆国際赤十字委員会発足。第一インターナショナル(国際労働者協会)設立集会。

**3歳 (元治2 1865)** ■第二次幕長戦争。

**4歳 (慶応1 1866)** 祖母まつ死去、父母のもとに戻る。■薩長盟約。第二次長州戦争。幕府イギリス留学生出発。◆朝鮮・米シャーマン号平壤攻撃、仏艦隊江華島を攻撃。インド・オリッサとベンガルで飢饉。リヴィングストン3回目アフリカ遠征。ロンドンで金融恐慌、以後大陸諸国に波及。第一インターナショナル第一回大会、ジュネーブで開催。

**5歳 (慶応2~3 1867)** ■土佐・薩摩藩で倒幕密約。三河から「ええじゃないか」起き各地へ波及。大政奉還。王政復古宣言。福沢諭吉『西洋事情』。◆米、ロシアからアラスカを買収。第一インターナショナル第二回大会。マルクス『資本論』第一巻刊。

**6歳 (慶応4~明治1 1868)** ■東本願寺、仏教以外の分野を学ぶ護法場を開設。鳥羽・伏見の戦い。戊辰戦争。五箇条の御誓文。神仏判然令、廃仏棄釈起る。江戸が東京に改名。長崎でキリシタン逮捕。◆第一インターナショナル第三回大会。

**7歳 (明治2 1869)** ■東本願寺、寺務を3局9等に改定、北海道開拓を許可される。五稜郭の戦い終結。版籍奉還。蝦夷地を北海道と改称。東京・横浜電信開通。二官六省の設置(神祇官の設置)。◆スエズ運河開通。第一インターナショナル第四回大会。トルストイ「戦争と平和」完結。

**8歳 (明治3 1870)** 黒門町の私塾に通学開始。■東本願寺現如北海道に出発。東京横浜間電信開通。大教宣布の詔発布。平民の名字使用許可。◆天津でキリスト教教会が襲撃され死傷者多数。普仏戦争。

**9歳 (明治4 1871)** ■三河菊間藩の真宗僧侶・門徒、寺院の廃合に反対し決起。東本願寺、寺務所を開き末寺僧侶による宗政運営を開始。郵便制度開始。戸籍法公布。廃藩置県。穢多・非人の称を廃止。岩倉具視使節団。大分、長野で農民暴動。◆朝鮮・米軍が江華島攻撃。普仏戦争・フランスがドイツに降伏。第一インターナショナルがマルクス起草の「フランスにおける内乱」を採択し発表。

**10歳 (明治5 1872)** 名古屋筒井町の情妙寺に愛知県第五義校が開設され、生徒となる。■真宗の宗名が公認される。福沢諭吉『学問のすすめ』。初の全国戸籍調査。政府派遣第一次留学生30人アメリカに向け上海を出航。政府、神祇省を廃し教部省を設置。政府、僧侶・神官を教導職に任命し、三条の教則を交付。政府、大教院設置を決定。学制頒布。新橋横浜間鉄道開業。人身売買禁止。官営富岡製糸場操業開始。太陽暦採用。

**11歳 (明治6 1873)** 義校が小学校と改称され第二十三番小学遷喬学校生となる。■キリスト教禁制の高札の撤去。徴兵令。岡山で徴兵令反対一揆。地租改正条例。岩倉使節団帰国。征韓論問題で西郷、板垣、江藤が下野。内務省設置。◆ウィーンで恐慌発生、ヨーロッパ各国に波及(大不況のはじまり)。

**12歳 (明治7 1874)** 小学校終了。愛知外国語(英語)学校に入学。■江藤新平らが拳兵。台湾出兵。明六社発足。◆上海仏租界の中国人墓地破壊の道路拡張案で衝突、死傷者。

**13歳 (明治8 1875)** ■真宗各派、大教院から離脱。大教院解散。愛国社結成。樺太・千島交換条約。讒謗律・新聞紙条例公布。日本軍艦雲揚丸、朝鮮江華島を攻撃(江華島事件)。信教の自由を口達。

**14歳 (明治9 1876)** ■南条文雄・笠原研寿イギリス留学。日韓修好条規党员。帯刀が禁止される。士族反乱続発。茨城県農民、地租改正反対一揆、全国に波及。◆シュリーマン、ミケーネ発掘。◆アメリカ独立百年記念フィラデルフィア万国博覧会。

**15歳 (明治10 1877)** 愛知英語学校廃校により愛知県医学校に入学も始業なく退校。四書五経を習いつつ近隣児童に英語を教える。東本願寺育英教校への入学を勧められる。■政府、教部省を廃止し内務省に社寺局を設置。地租軽減実施。西南戦争。東京大学創設。第一回内国勸業博覧会。◆英・ヴィクトリア女王がインド皇帝即位宣言(インド帝国の成立)。ロシア・オスマン朝(露土)戦争。

**16歳 (明治11 1878)** 尾張覚音寺空恵と京都に行く。覚音寺衆徒として東本願寺で得度。東本願寺育英教校に入学。弟金之助死去(享年6歳)。■松山にコレラ発生、全国に蔓延。大久保利通暗殺。近衛砲兵反乱(竹橋事件)。参謀本部条例制定。

**17歳 (明治12 1879)** ■沖縄県設置、清国公使これに抗議。アメリカ前大統領グラント来日。政府、学制を廃し教育令を制定。コレラ大流行。

**18歳 (明治13 1880)** ■東本願寺、阿弥陀堂・御影堂の再建を開始。国会期成同盟。集会条例。刑法公布。◆米・救世軍設立。

**19歳 (明治14 1881)** 東本願寺より東京留学を命じられ稲葉昌丸・柳祐久と共に東京に行く。■東本願寺、宗派名を「大谷派」とする。大隈重信失脚。国会開設の勅諭。日本鉄道会社設立。

**20歳 (明治15 1882)** 東京大学予備門入学。 ■軍人勅諭。伊藤博文、憲法調査のため渡欧。日本銀行開業。東京専門学校(早大前身)。会津自由党員と農民が警官と衝突(福島事件)。◆朝鮮・兵が日本公使館を襲撃。上海の租界に電灯点く。清・日本に対抗し朝鮮に派兵。

**21歳 (明治16 1883)** 東京大学予備門卒業し文学部哲学科に入学。学制騒動に連座し退学を命じられる。 ■三池・高島炭鉱暴動。鹿鳴館開館。 ◆マルクス没。ニーチェ「ツァラトストラ」刊。

21 8-1-1 [予備門日記]

**22歳 (明治17 1884)** 東京大学再入学。井上円了らが結成した哲学会に加わる。 ■教導職制度が廃され、各宗宗制・寺法の制定が命じられる。東本願寺の負債三百余万円に達する。 憲法、皇室典範の起草に着手。自由党解党。松方財政(デフレ)による農村不況深刻化。秩父の農民、郡役所、高利貸などを襲撃、軍隊鎮圧(秩父事件)。農民騒乱続発。日清両国が朝鮮に出兵。◆エンゲルス「家族、私有財産および国家の起源」刊。

22 4-3-1-1 Essay on Spinozism.

22 4-3-2 [大学二年度ノート]

22 8-1-2 漫録

**23歳 (明治18 1885)** ■東本願寺、相続講設立趣意書を発表。 天津条約。日本銀行、兌換銀行券を発行。内閣制度創設。伊藤博文内閣。第一回官約移民ハワイに出航。福沢諭吉「脱亜論」。

23 4-3-1-2 The Essay on the Transcendental Analytic of Conceptions.

23 4-3-3 [大学三年度ノート]

**24歳 (明治19 1886)** 哲学会の書記となる。 ■帝国大学令公布。甲府兩宮製糸場女工争議。第一回条約改正会議。企業勃興。コレラ流行。東京婦人矯風会設立。

24 4-3-1-3 The Ethics of Spinoza compared with the Ethics of Plato; Their Points of Resemblance & Contrast.

24 4-3-4 [大学第四年度ノート]

**25歳 (明治20 1887)** 『哲学会雑誌』創刊、五号まで編集に携わる。帝国大学文科大学哲学科を卒業。大学院に残り宗教哲学を専攻。第一高等学校の教授を嘱託されフランス史を講じる。郷里より両親を迎える。哲学館設立に評議員として参画、心理学・純正哲学の講義を担当。 ■保安条例公布。首相官邸で仮装舞踏会。鹿鳴館などの欧化主義への非難高まる。徳富蘇峰「国民之友」創刊。中江兆民『三酔人経綸問答』刊 ◆清・マカオをポルトガルに割譲。英・第一回植民地会議。

25 1-2-1 宗教心を論ず

25 4-2-1 哲学定義集

**26歳 (明治21 1888)** 京都府尋常中学校の校長に就任。京都に転居。愛知県碧海郡大浜町西方寺の清沢やす(21歳)と結婚、入寺。 ■東本願寺、京都府から京都府尋常中学校の経営を委嘱される。市制町村制公布。枢密院設置。各地の鎮台を廃止し師団を置く。三宅雪嶺『日本人』創刊。 ◆清・北洋海軍成立。

26 3-1 純正哲学(哲学論)

26 3-3-1 心理学(応用)

26 4-1 西洋哲学史試稿

26 4-2-2 経験世界

26 4-2-3 因果ノ理法ヲ論ス

26 4-2-4 科学哲学宗教之関係

26 9-1 明治二十一(一八八八)年

26-27 1-2-2 宗教哲学講義〔『教学誌』所載〕

**27歳 (明治22 1889)** 京都府尋常中学校に「樹心会」結成されその指導にあたる。宗教学術に関する研究会「理長会」を始める。中絶していた東本願寺の留学生制度が満之の建議で復活。大学寮(真宗大学寮)で西洋哲学史を講ずる。長女みち誕生。 ■現如、東本願寺第二十二世を継職。大日本帝国憲法発布。皇室典範制定。衆議院議員選挙法・貴族院令公布。最初の経済恐慌おこる。東海道線全通。 ◆仏・エッフェル塔完成。第二インタナショナル発足。

27 3-2-1 [論理学試稿]

- 27 3-2-2 論理学艸案
- 27 3-3-2 [心理学試稿]
- 27 3-3-3 情
- 27 7-2-3-1 因果之理法
- 27 9-1 明治二十二(一八八九)年
- 
- 28歳 (明治23 1890)** 尋常中学校校長を辞職(中学校・大学寮の授業は継続)。剃髪し着衣を洋装から僧衣に改め、修道生活を始める。真宗の仮名聖教、歎異抄に親しむ。妻やす出産するも産児死去。■稲葉昌丸、京都府尋常中学校校長に就任。府県制・郡制公布。第一回衆議院議員選挙。教育勅語発布。第一回帝国議会開会。◆ウィリアム・ジェームズ『心理学原理』刊。A・マーシャル『経済学原理』刊。
- 28 7-1-2-1 西方問答
- 28 7-1-2-2 信願要義
- 28 7-1-2-3 [詠歌]
- 28 7-1-2-4 願生偈
- 28 7-2-3-2 第三高等中学仏教青年会演説
- 28 7-2-3-3 第三高等中学校仏教青年会演説[『伝道会雑誌』第二十二号]
- 28 7-2-3-4 第三高等中学校仏教青年会演説[『伝道会雑誌』第三編第一号]
- 28 8-2-1 随筆偶録
- 28 8-2-2 随手日記
- 28 8-2-3 [骸骨雑記 第一]
- 28 9-1 明治二十三(一八九〇)年
- 
- 29歳 (明治24 1891)** 岡崎御学館の組織改革を建議、御学館の用掛となる。大学寮で宗教哲学を講じる。母たき死去(享年四十九歳)。以後修道生活厳しさを増す。■内村鑑三、教育勅語への拝礼を拒否。井上哲次郎「宗教と教育について」発表、キリスト教を攻撃。露皇太子ニコライ大津で襲われる(大津事件。)濃尾大地震。全壊焼失家屋14万2千戸。死者7200人。田中正造、足尾鋳毒事件で衆議院に質問書を提出。◆セイロン・ダルマパーラ、大菩提会を創設、仏教復興運動。第二インタナショナル第二回大会、戦争反対決議。マルクス『ゴータ綱領批判』刊。
- 29 3-4 倫理学
- 29 7-1-2-5 岡崎御学館ノ儀二付
- 29 7-2-3-5 第三高等中学校生仏教青年会創立一周年賀会演説摘要
- 29 9-1 明治二十四(一八九一)年
- 29-30 1-2-3 宗教哲学[真宗大学寮明治二十四年度講義]
- 29-30 1-3 宗教哲学初稿
- 
- 30歳 (明治25 1892)** 関西仏教青年夏季学校に講師として出席。大学寮で「宗教哲学骸骨講義」を講じる。稲葉らとともに教学の独立を建築。修道生活いよいよ厳しくなる。近在の行者を歴訪。■稲葉昌丸、東本願寺からの尋常中学への資金回付遅延を憂い、満之とともに資金募集を建議するが不許可となり校長を辞任。出口なお、大本教を開教。久米邦武「神道は祭天の古俗」を神道家が非難。第二回総選挙(政府干渉で各地に騒擾)。「万朝報」創刊。
- 30 1-1-1 『宗教哲学骸骨』
- 30 3-5-1 [宗教要旨]
- 30 3-5-2 [信卜理]
- 30 7-2-3-6 仏教少年会の発会を祝す
- 30 9-1 明治二十五(一八九二)年

- 30 9-2-2-2 如是文庫蔵書扣  
 30 9-2-2-3 如是文庫資金扣  
 30 9-2-3 聖教拔萃〔典籍名一覽〕  
 30-31 1-1-2 宗教哲学骸骨自筆書入  
 30-31 1-1-3 〔仏教〕  
 30-31 1-1-4 〔南無阿弥陀仏〕  
 30-31 1-1-5 宗教哲学骸骨講義

**31歳 (明治26 1893)** 長男信一誕生。愛知県碧海郡教育会で「教育の二進路」と題し講演。三重県二見浦で開催の関西仏教青年会に講師として出席のため徒歩で旅行。同会で「思想開発環」講演。大谷尋常中学校嘱託教員となる。■東本願寺、京都府尋常中学校を府に返還し、大谷尋常中学校を開設。軍艦建造のため文武官吏俸給の1割を納付させる詔勅(和衷協同の詔書)。海軍軍令部条例、戦時大本営条例。日本基督教婦人矯風会結成。◆シカゴでの万国宗教大会で“The Skelton of aPhilosophy of Religion”が紹介される。シカゴ万国博覧会。第二インタナショナル第三大会。

- 31 1-1-6 THE SKELETON OF A PHILOSOPHY OF RELIGION.  
 31 2-5-10 三学  
 31 2-5-11 十四垢業(長阿含善生經)  
 31 2-5-12 〔七十五法〕  
 31 2-5-13 〔仏教開発的教授法〕  
 31 2-5-14 〔教学問題〕  
 31 2-5-3 南無阿弥陀仏  
 31 2-5-4 〔阿弥陀仏〕  
 31 2-5-5 〔仏〕  
 31 2-5-6 仏法私解  
 31 2-5-7 〔如来十号〕  
 31 2-5-8 〔四聖諦〕  
 31 2-5-9 〔八正道〕  
 31 2-6-1 思想開発環  
 31 2-6-2 黄金世界  
 31 2-6-3 信教の利益  
 31 3-5-5 〔転変〕  
 31 7-2-3-7 上棟式を祝す  
 31 7-2-3-8 教育の二針路  
 31 8-2-4 〔骸骨雜記 第二〕  
 31 9-1 明治二十六(一八九三)年  
 31-36 2-5-1 真宗の教法  
 31-36 2-5-2 随感録

**32歳（明治27 1894）** 肺結核の診断を下される。妻子とともに兵庫県明石郡西垂水村に療養転居。 ■ 東本願寺、大谷尋常中学校を真宗第一中学校と改称し寮長に南条文雄が就任、沢柳政太郎が寮長事務加談となる。真宗第一中学寮生二百名がストライキ事件を起こす。沢柳が寮長事務加談を解かれる。日英通商航海条約調印。日清戦争。

32	2-6-4	万法相関之理
32	2-6-5	楽土論
32	2-6-6	宗教論
32	2-6-7	世界の進み
32	5	西洋哲学史講義
32	8-2-5	病床日誌
32	8-3-1	病床左録
32	8-3-2	保養雑記 第壹編
32	9-1	明治二十七(一八九四)年

**33歳（明治28 1895）** 沢柳が満之を訪ねる。西垂水村の洞養寺(臨済宗南禅寺派)に転居。京都に帰る。稲葉、井上、今川、清川、南条、村上ら12名連署で東本願寺へ寺務改革「建言」を提出。父永則とともに京都愛宕郡白川村に転居。 ■ 東本願寺、阿弥陀堂・御影堂再建。日清講和条約。露・独・仏による三国干渉。日本公使ら朝鮮王妃殺害(乙未事変)。 ◆ マルコーニ、無線電信を発明。デュルケーム『社会学的方法の規準』刊。

33	2-1-1	在床懺悔録
33	2-1-2	他力教哲学
33	2-1-3	〔無量寿経諸本願文対照表〕
33	2-1-4	〔調和論〕
33	2-1-5	善悪二関スル質義
33	2-1-6	浄土真宗信心要義
33	2-5-16	聖清(伝)集
33	2-5-17	遺伝ト業感
33	2-5-18	〔真理ニハ広狭大小アルコトナシ〕
33	2-5-19	理と信
33	2-6-8	加藤先生二質ス
33	2-6-9	善悪の因果応報論に付て再び加藤先生に質す
33	3-5-6	真理ノ品階及検定法
33	3-5-7	仏教と進化論(一端)
33	7-1-2-6	装束
33	7-1-2-7	建言
33	8-3-3	保養雑記 第二篇
33	8-3-4	〔療養雑記 第一〕
33	8-3-5	〔療養雑記 第二〕
33	9-1	明治二十八(一八九五)年
33? 37?	2-5-15	〔聖賢集〕

33? 37? 2-5-20 七賢人

**34歳 (明治29 1896)** 静岡県浜名湖で開催の大日本仏教青年会夏期講習会で「宗教と道德の関係」講演。愛知県碧海郡泉正寺で「心識不滅論」講演。稲葉らと教界時言社を設立し東本願寺の改革を唱える。寺務改革案賛同の全国有志と大谷派革新有志懇話会を開催。■東本願寺、大学寮・中学寮を廃し真宗高倉大学寮・真宗大学を、全国十三カ所に真宗中学を開設することを決定。稲葉ら大学寮・第一中学寮の教授職を解かれる。真宗大学生ら清沢らの改革案に賛同して全員同盟休校届を提出。研究科・本科生百名退学になる。真宗京都中学生八十八名退学になる。東本願寺執事渥美契縁、退陣する。朝鮮に関し山県・ロバノフ協定締結。三陸大津波。◆清・日本へ初の官費留学生13人派遣。第一回オリンピック(アテネ)。第二インタナショナル第四大会、植民地主義反対を決議。

- 34 2-6-10 仏教之現利
- 34 2-6-11 宗教と道德の関係
- 34 2-6-12 心識不滅論
- 34 2-6-13 個人と社会の関係
- 34 2-6-14 因果之理法
- 34 3-5-10 「真理と宗教」に対する批評に就て
- 34 3-5-3 〔個人ト社会〕
- 34 3-5-4 〔靈魂滅否〕
- 34 3-5-8 『仏教と進化論』に対する批評に就て
- 34 3-5-9 真理と宗教
- 34 6-2-1 釈尊降誕会に就いて
- 34 7-1-1-1 教界時言発行の趣旨
- 34 7-1-1-2 大谷派の有志者に激す
- 34 7-1-1-3 教学資金に就て
- 34 7-1-1-4 我内事局長の失責
- 34 7-1-1-5 革新の要領
- 34 7-1-1-6 末寺会議
- 34 7-1-2-8 改革運動覚書(一)
- 34 9-1 明治二十九(一八九六)年

**35歳 (明治30 1897)** 有志とともに大谷派宗務革新請願事務所を開設。有志二百名と東本願寺に改革を迫る。有志三百名と大谷派革新全国同盟会を結成。東本願寺から、稲葉らと共に一派の寺務を非議し派内の静謐を妨げたとして除名処分を受ける。次男即往誕生。四阿含を読誦。■皇太后喪中恩赦により真宗大学生・真宗京都中学生の退学処分が解除。東本願寺、清沢ら革新首謀者、請願者、大学生、中学生を招集し議制局組織の拡張などを発表。京都帝国大学設置。労働組合期成会が結成。金本位制の実施。綿糸輸出額が輸入額を超過。

- 35 6-2-2 信の成立
- 35 6-2-3 正信と迷信
- 35 7-1-1-10 大谷派宗政の革新
- 35 7-1-1-11 立憲的宗政実施に対する当路者の用意如何
- 35 7-1-1-12 財務部各地出張所を論ず
- 35 7-1-1-13 自称実務家
- 35 7-1-1-14 革新の前途

- 35 7-1-1-15 議制局に関する宗制寺法の改定  
 35 7-1-1-16 真宗大学新築の位置に就きて  
 35 7-1-1-17 布教の方針  
 35 7-1-1-18 門徒会議開設の議に対する当路者の意向  
 35 7-1-1-19 大谷派宗務革新の方針如何  
 35 7-1-1-20 財政之前途  
 35 7-1-1-21 貫練会を論ず  
 35 7-1-1-22 宗制寺法補則の発布  
 35 7-1-1-23 本誌の将来  
 35 7-1-1-24 其外は則ち錦繡其内は則ち敗絮  
 35 7-1-1-7 師命論  
 35 7-1-1-8 言路の壅塞  
 35 7-1-1-9 連枝をして宗務の衝に当らしむるの不可を論ず  
 35 7-1-2-9 改革運動覚書(二)  
 35 8-4-1 六花翻々  
 35 9-1 明治三十(一八九七)年  
 35? 2-2 他力門哲学骸骨試稿

**36歳 (明治31 1898)** 稲葉らとともに除名処分を解かれる。西方寺に転居。愛知県小山村敬専寺での三為会夏期大会で「三為の説」講演。沢柳から『エピクテタス語録』借覧。■第一次大隈重信内閣(最初の政党内閣)。社会主義研究会結成。◆米アジア艦隊、スペイン艦隊を撃破。米、フィリピン全土に軍政を敷く。米、ハワイ併合。ブレハーノフ『歴史における個人の役割』刊。

- 36 6-2-4 仏教の効果は消極的なるか  
 36 7-1-1-25 仏教者盍自重乎  
 36 7-1-1-26 教界回轉の枢軸  
 36 7-1-1-27 吾教界の教育家に警告す  
 36 7-2-3-9 三為の説  
 36 8-4-2 病床雑誌〔第一号〕  
 36 8-4-3 病床雑誌 第三号  
 36 8-4-4 病床雑誌 第参号  
 36 8-4-5 徒然雑誌 第一号  
 36 8-5-1 臘扇記 第一号  
 36 9-1 明治三十一(一八九八)年  
 36 9-2-1-2 〔棚尾橋架橋碑文〕  
 36-37 8-5-2 臘扇記 第二号

**37歳 (明治32 1899)** 大谷光演の招きにより東京に転居。近角常観宅に仮寓。光演の補導の任に就く。福井県敦賀開催の関西仏教青年会夏期講習会で「破邪顕正談」講演。■私立学校令公布。治外法権撤廃。「中央公論」創刊。横山源之助『日本之下層社会』刊。ペルーへの最初の日本人移民。◆中国、義和団事件。米国、中国の門戸解放を宣言。比・米軍と独立革命軍の戦闘開始(米比戦争)。露・全土で大規模な学生運動。レーニン『ロシアにおける資本主義の発達』刊。

37	2-6-15	因果の必然と意志の自由
37	6-2-5	生死巖頭
37	6-2-6	信仰の進歩
37	6-2-7	他力信仰の発得
37	6-2-8	仏教興起
37	6-2-9	宗教と道德との相関
37	6-3-1	〔信界〕
37	9-1	明治三十二(一八九九)年
37-38	2-3	有限無限録
37-38	2-4	転迷開悟録
37-40	7-1-2-10	〔御進講覚書〕

**38歳 (明治33 1900)** 哲学館真宗会で「空想の実用」講演。寓居にて多田、佐々木、暁烏らと共同生活を始める、舎名を浩々洞とする。 ■治安警察法公布。北清事変(義和団鎮圧の派兵)。立憲政友会結成。 ◆アモイ東本願寺布教所焼失。ニーチェ没。第二インタナショナル第五大会。クローチェ『史的唯物論とマルクス主義経済学』刊。

38	2-6-16	破邪顕正談
38	2-6-17	宗教と文明
38	6-2-10	快樂
38	6-2-11	祈禱は迷信の特徴なり
38	6-2-12	空想の実用
38	6-2-13	覚悟之必要
38	6-2-14	独立の精神
38	6-2-15	人の為め
38	6-2-16	服従の美德
38	6-2-17	内観主義
38	6-4-1	信仰の余瀝序
38	7-1-2-11	〔真宗大学構想〕
38	7-2-1-1-1	内心の決定
38	7-2-1-1-10	差別
38	7-2-1-1-11	優勝劣敗
38	7-2-1-1-12	無我
38	7-2-1-1-13	無我と元気
38	7-2-1-1-14	妄念の伏断
38	7-2-1-1-15	快樂と理解
38	7-2-1-1-16	理解と信仰
38	7-2-1-1-17	信仰と疑惑
38	7-2-1-1-18	疑惑の増進



38	7-2-1-1-19	人智は窮極あり
38	7-2-1-1-2	心意の強弱
38	7-2-1-1-20	転迷開悟の二門
38	7-2-1-1-21	独立自存
38	7-2-1-1-22	憍慢
38	7-2-1-1-23	虚飾
38	7-2-1-1-24	自信力
38	7-2-1-1-25	服従
38	7-2-1-1-26	心の動転
38	7-2-1-1-27	理想
38	7-2-1-1-28	理想の転変
38	7-2-1-1-29	真理の遍満
38	7-2-1-1-3	心念の聯結
38	7-2-1-1-30	本位の尊嚴
38	7-2-1-1-31	吾人は他人の為に苦めらるるものにあらず
38	7-2-1-1-32	吾人は外物の為に苦めらるるものにあらず
38	7-2-1-1-33	吾人は欲の為に苦めらるるものにあらず
38	7-2-1-1-34	自由
38	7-2-1-1-35	厭世
38	7-2-1-1-36	現在
38	7-2-1-1-37	人生
38	7-2-1-1-38	活動は必しも進化作用にあらず
38	7-2-1-1-39	活動の方向、道、
38	7-2-1-1-4	善悪
38	7-2-1-1-40	人心と道心
38	7-2-1-1-5	罪惡
38	7-2-1-1-6	吾人は有限なり
38	7-2-1-1-7	独立自主
38	7-2-1-1-8	相對と同情
38	7-2-1-1-9	平等
38	7-2-1-2	ソクラテスに就きて
38	7-2-2-1-1	至誠の心
38	7-2-2-1-2	満足の心
38	7-2-2-1-3	少慾の心
38	7-2-2-1-4	克己の心

- 38 7-2-2-1-5 不動の心  
 38 7-2-2-1-6 無畏の心  
 38 7-2-3-10 愛知教育会総集会ニ於ケル文学士清沢満之君演説  
 38 8-6-1 [明治三十三年当用日記抄]  
 38 9-1 明治三十三(一九〇〇)年

**39歳 (明治34 1901)** 浩々洞から『精神界』発刊。京都真宗中学で「遠美近醜」講演。真宗大学で「平等観」講演。御真影還座三百年記念法要で「和衷協同」演説。渥美、足立、南条と共に大谷派耆宿局員に就任。三重県四日市での関西仏教青年会夏期講習会で「精神主義」講演。南条、村上、稲葉らとともに教学調査会委員就任。東本願寺より真宗大学学監に任命。真宗大学移転開校式。浩々洞で第一回精神講話。■真宗大学が京都から東京に移転。八幡製鉄所開業。片山潜、幸徳秋水ら社会民主党結成(二日後禁止)。福沢諭吉没。愛国婦人会結成。田中正造、足尾鉬毒事件を天皇に直訴。中江兆民没。

- 39 6-1-1 精神主義  
 39 6-1-10 精神主義と物質的文明  
 39 6-1-11 智慧円満は我等の理想なり  
 39 6-1-12 宗教は目前にあり  
 39 6-1-13 競争と精神主義  
 39 6-1-14 実力あるものの態度  
 39 6-1-15 楽天  
 39 6-1-16 先づ須らく内観すべし  
 39 6-1-17 心機の発展  
 39 6-1-18 精神主義と唯心論  
 39 6-1-19 真正の独立  
 39 6-1-2 信するは力なり  
 39 6-1-20 精神主義と他力  
 39 6-1-21 宗教的信念の必須条件  
 39 6-1-22 善悪の思念によれる修養  
 39 6-1-3 万物一体  
 39 6-1-4 公德問題の基礎  
 39 6-1-5 三誓の文  
 39 6-1-6 一念  
 39 6-1-7 自由と服従との双運  
 39 6-1-8 科学と宗教  
 39 6-1-9 遠美近醜  
 39 6-2-18 仏教の将来  
 39 6-2-19 因縁と諦ること  
 39 6-2-20 心浄ければ世界浄し  
 39 6-2-21 倫理の大本と宗教との関係  
 39 6-2-22 宗教は主観的事実なり

39	6-2-23	和衷協同
39	6-2-24	法律、道德、宗教
39	6-2-25	精神主義〔明治三十四年講話〕
39	6-4-2	宗教管見序
39	6-4-3	本位本分の自覚〔『真の人』〕
39	6-4-4	序〔『布教学』〕
39	6-4-5	序〔『靈界之偉人』〕
39	6-4-6	序言〔『静観録』〕
39	6-5	養病対話抄
39	7-2-1-1-41	道德と不徳
39	7-2-1-1-42	道德と法律
39	7-2-1-1-43	形式と精神
39	7-2-1-1-44	有用と無用
39	7-2-1-1-45	価値の本源
39	7-2-1-1-46	吾人の価値
39	7-2-1-1-47	価値の本体
39	7-2-1-1-48	価値の変動
39	7-2-1-1-49	時世と宗教
39	7-2-1-1-50	変ずるものは不安を生ず
39	7-2-1-1-51	不安は必ずしも苦痛にあらず
39	7-2-1-1-52	智目行足
39	7-2-1-1-53	理想は目標なり
39	7-2-1-1-54	各扱一義
39	7-2-1-1-55	反対は心に在り
39	7-2-1-1-56	世間、出世間
39	7-2-1-1-57	不調と調和
39	7-2-1-1-58	解脱
39	7-2-1-1-59	極端なる利己主義
39	7-2-1-1-60	極端なる利他主義
39	7-2-1-1-61	光明主義
39	7-2-1-1-62	精神主義の活動
39	7-2-1-1-63	発達進歩と寂然不動
39	7-2-1-1-64	知識と信仰との融和
39	7-2-1-1-65	読書二法
39	7-2-1-3	平等観

- 39 7-2-2-1-10 従順の心  
 39 7-2-2-1-11 和合の心  
 39 7-2-2-1-7 精進の心  
 39 7-2-2-1-8 忍辱の心  
 39 7-2-2-1-9 不諍の心  
 39 7-2-3-11 〔真宗大学開校の辞〕  
 39 9-1 明治三十四(一九〇一)年

**40歳 (明治35 1902)** 上野精養軒での仏教徒懇話会で演説。近角常観の帰国にともない浩々洞移転。長男信一死去(享年十一歳)。東本願寺浅草別院での大谷派関八州会夏季講習会で「精神主義」演説。正岡子規に『病牀六尺』の読後感を送る? 妻やすの病状悪化、看病のため西方寺に帰る。妻やす死去(享年三十六歳)。真宗大学学監を辞任。西方寺に転居。■『新仏教』に精神主義に対する批判掲載。曾我量深、『無尽灯』で精神主義に対する疑問を提示。八甲田山行軍訓練で199人凍死。日英同盟。小学校就学率が90%越える。◆J.A.ホブソン『帝国主義論』刊。

- 40 6-1-23 迷悶者の安慰  
 40 6-1-24 仏による勇氣  
 40 6-1-25 精神主義と三世  
 40 6-1-26 客観主義の弊習を脱却すべし  
 40 6-1-27 精神主義と共同作用  
 40 6-1-28 日曜日の小説  
 40 6-1-29 親鸞聖人の御誕生会に  
 40 6-1-30 信仰問答(一節)  
 40 6-1-31 絶対他力の大道  
 40 6-1-32 生活問題  
 40 6-1-33 天職及聖職  
 40 6-1-34 倫理以上の安慰  
 40 6-1-35 自ら悔る自ら重すると云ふ事  
 40 6-1-36 人の怒るを恐るる事  
 40 6-1-43 精神主義〔明治三十五年講話〕  
 40 6-2-26 女子に於ける感情の両面  
 40 6-2-27 将来之宗教  
 40 6-2-28 エピクテタス氏  
 40 6-3-2 パンの問題  
 40 7-2-1-1-66 同情  
 40 7-2-1-1-67 異情  
 40 7-2-1-1-68 あるべきもの  
 40 7-2-1-1-69 標準の探求  
 40 7-2-1-1-70 標準は不可得なり  
 40 7-2-1-1-71 客観的標準なきなり

- 40 7-2-1-1-72 主観的標準  
 40 7-2-1-1-73 迷信の根拠  
 40 7-2-1-1-74 真個の迷信  
 40 7-2-1-1-75 迷信の勦滅(シヨウメツ)  
 40 7-2-2-1-12 自由の念  
 40 7-2-4-1 最勝之快樂  
 40 7-2-4-2 宗教と道德  
 40 8-6-2 [明治三十五年当用日記抄]  
 40 8-6-3 [明治三十五年六月五日記]  
 40 9-1 明治三十五(一九〇二)年

**41歳 (明治36 1903)** 東本願寺の耆宿会議、教学商議会に出席。三男広濟死去(享年五歳)。■真宗大学学監に南条文雄が就任。曾我量深、浩々洞に入る。小学校教科書の国定化決定。藤村操、華嚴の滝に投身自殺。平民社設立『平民新聞』。満州を巡り対露関係悪化。◆ライト兄弟初飛行。米・パナマ運河地帯の永久租借権獲得。

- 41 6-1-37 倫理以上の根拠  
 41 6-1-38 我以外の物事を当てにせぬこと  
 41 6-1-39 略血したる肺病人に与ふるの書  
 41 6-1-40 宗教的道德(俗諦)と普通道德との交渉  
 41 6-1-41 他力の救済  
 41 6-1-42 我信念  
 41 6-3-3 [人生の根源]  
 41 6-3-4 [須らく相對の理を觀ずべし]  
 41 6-3-5 [他力の救済]  
 41 6-3-6 我は此の如く如来を信ず(我信念)  
 41 7-2-2-2 真の朋友  
 41 7-2-4-3 疑を質す  
 41 7-2-4-4 法話  
 41 8-7 [明治三十六年当用日記抄]  
 41 9-1 明治三十六(一九〇三)年